



INDEX

・(一社)日本養鶏協会 第74回定時総会 開催	1
・米山 大介 新会長 就任	3
・畜産物輸出促進協議会 鶏卵輸出部会 第9回通常総会 開催	4
・令和5年度畜酪適正価格形成推進会議の中間報告について	5
・高病原性鳥インフルエンザの清浄化宣言について	6
・配合飼料供給価格の動向	6
・統計データ	7
・協会活動報告	8

(一社) 日本養鶏協会 第74回定時総会 開催

令和5年6月29日(木) 東京・大手町 サンケイプラザにおいて、「日本養鶏協会第74回定時総会」が開催されました。

冒頭、杉原勲会長の挨拶後、来賓を代表して農林水産省畜産局長 渡邊様並びに独立行政法人農畜産業振興機構 理事長 天羽様から祝辞をいただきました。

杉原会長より松本義治筆頭副会長が議長に指名され、松本議長のもと令和4年度事業報告、令和5年度事業計画及び収支予算の報告がなされた後、下記第1号～第2号議案は原案通り可決、第3号議案は二つの修正議案が提示され、採決の結果、賛成多数により理事22名・監事3名の修正議案が可決されました。



杉原会長の挨拶の様子

- 第1号議案 令和4年度計算書類等に関する件 (公益目的支出計画実施報告も含む)
- 第2号議案 令和5年度会費の賦課及び徴収方法に関する件
- 第3号議案 理事23名・監事3名選任に関する件

【お問い合わせ】

総務部 Tel : 03-3297-5515

(一社) 日本養鶏協会 会費会員 令和5年度 会費納入のお願い

第74回定時総会で決定しました本年度年会費の請求書を発送いたします。
第1回納付分は8月31日(木)までにお振込みいただきますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

※ なお、本会事業の円滑な遂行を図るため、令和5年8月末日までに一括納入頂ければ、ありがたく存じます。



一般社団法人 日本養鶏協会 役員名簿

理事	高野 英夫	青森県養鶏協会理事 (株) オリエンタルファーム 代表取締役	再任
理事	中村 徹	岩手県養鶏協会会長 (株) 岩手ファーム 代表取締役	再任
理事	米山 大介	北海道養鶏会議会長 (株) ホクリヨウ 代表取締役社長	再任
理事	あざみ 薊 克則	群馬県養鶏協会副会長 (株) あざみ育成場 代表取締役	再任
理事	鈴木 憲一	茨城県養鶏協会会長 (有) スズキファーム 代表取締役	再任
理事	原田 睦彦	イセ食品(株) 常務執行役員 イセファーム(株) 代表取締役	新任
理事	彦坂 誠	(一社) 神奈川県畜産会養鶏部会部会長 神奈川県中央養鶏農業協同組合 代表理事組合長	再任
理事	齋藤 利明	(一社) 愛知県養鶏協会代表理事 知多養鶏農業協同組合 代表理事組合長	再任
理事	仙田 学	三重県養鶏協会代表監事 (有) センダ養鶏 代表取締役	再任
理事	中山 真一	石川県養鶏協会会長 (株) ナカヤマエッグ 代表取締役社長	新任 (元理事)
理事	原 勇	滋賀県養鶏協会会長 原養鶏所 代表	新任
理事	岡田 大介	(株) アキタフーズ 取締役会長	再任
理事	杉原 勲	徳島県養鶏協会顧問 徳島県養鶏販売農業協同組合 代表理事組合長	再任
理事	中山 晋吾	兵庫県養鶏協会会長理事 (有) 竜野養鶏センター 代表取締役	再任
理事	門田 和晴	(一社) 広島県養鶏協会会長 (有) 津口ファーム 代表取締役	新任
理事	落水 日朗	長崎県養鶏協会会長 長崎県鶏卵事業農業協同組合 代表理事組合長	再任
理事	高松 信吾	鹿児島県養鶏協会会長 マルイ農業協同組合 代表理事組合長	再任
理事	高橋 龍彦	全国農業協同組合連合会 畜産総合対策部長	再任
理事	杉原 健一	日本養鶏農業協同組合連合会 代表理事会長	再任
理事	江本 行宏	愛知県農業水産局 畜産振興監兼畜産課長	再任
理事	小川 ^{かん だい} 寛大	広島県農林水産局畜産課長	新任
理事	浅木 仁志	前農林水産消費安全技術センター 神戸センター所長	再任
監事	半澤 清彦	山形県養鶏協会会長 (株) 半澤鶏卵 代表取締役	再任
監事	荒牧 洋一	大分県養鶏協会会長 (有) グリーンファーム久住 取締役会長	再任
監事	須田 孝	(一社) 全国鶏卵養鶏団体連合会 常務理事	再任



米山 大介 新会長 就任

6月29日（木）、令和5年度第2回理事会が開催されました。

議事に入り、役付き役員について理事間による互選の結果、以下のとおり選任されました。

会 長 米山 大介 氏（北海道養鶏会議会長）

筆頭副会長 高松 信吾 氏（鹿児島県養鶏協会会長）

副会長 彦坂 誠 氏（（一社）神奈川県畜産会養鶏部会部会長）

専務理事 浅木 仁志 氏（元農林水産省）

米山 大介 新会長 就任挨拶

（一社）日本養鶏協会の会長に選任されました米山大介です。

私自身も養鶏業界の一員として、また副会長として2年間、杉原会長を補佐してまいりまして、解決しなければならない問題が山積みであると痛感しております。

中でも鳥インフルエンザの問題は最重要課題として取り組んでいかなければなりません。大規模生産者、中小の生産者を問わず、共通の問題として意見を集約し、国に対して実態に即した対応策を提起してまいりたいと考えております。

今後とも皆様のご協力をいただき、協会運営に尽力してまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。





畜産物輸出促進協議会 鶏卵輸出部会 第9回通常総会 開催

令和5年6月15日（木）15：00より、馬事畜産会館・2階会議室において、鶏卵輸出部会第9回通常総会が開催されました。

冒頭、落水部会長より「令和4年度は、3年ぶりに現地に出張してシンガポールでのプロモーション活動を実施することができた。令和4年の輸出数量は初めて3万トンを超え堅調に推移したが、令和5年に入り鳥インフルエンザ大量発生の影響を受け大幅減少に転じており、当面輸出にとっては厳しい環境が続くが、現地でのプロモーション活動や展示会への参加、新規輸出先開拓に向けた調査など、引き続きオールジャパンで日本産鶏卵のブランド力向上と更なる輸出増加を目指していきたい。」と挨拶がありました。



会場の様子

その後来賓を代表し、農林水産省畜産局食肉鶏卵課長 猪口様よりご祝辞とご挨拶を頂きました。

下記1号議案～5号議案が全て可決され、役員選任後、役員会にて役付理事の互選が行われ、部会長に落水日朗氏（日本養鶏協会）、副部会長に岡田大介氏（株式会社アキタフーズ）及び青木健吾氏（全国農業協同組合連合会）が選任され、正式に令和5年度の事業がスタートしました。

- 第1号議案 令和4年度事業報告及び計算書類に関する件
- 第2号議案 令和5年度事業計画案に関する件
- 第3号議案 令和5年度収支予算案に関する件
- 第4号議案 日本畜産物輸出促進協議会の一般社団法人化に伴い、
鶏卵輸出部会の名称を変更する件、
及び鶏卵輸出部会規則の一部改訂の件
- 第5号議案 役員を選任に関する件



鶏卵統一マーク
「TAMAGO = JAPAN EGG」

【お問い合わせ】

日本畜産物輸出促進協議会 鶏卵輸出部会 事務局

Tel : 03-3297-5508 Fax : 03-3297-5519



畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備に係る中間とりまとめについて

配合飼料価格の高騰とその高止まりが畜産経営を圧迫している中、畜産物の生産コストを適正に反映した価格形成の在り方について検討するため、農林水産省は、「畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議」を令和5年4月に立ち上げ、今般、中間とりまとめ案が出されましたので、概要をお知らせします。

昨年から顕著になった配合飼料価格の高騰とその高止まりに際し、畜産物の適正な価格転嫁を求める声が上がりました。

しかし、十分な価格転嫁が実現したとは言い難く、農林水産省は「畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議」において、①消費者の理解醸成、②畜産物の生産コストを適正に反映した価格形成の仕組みづくり、の2つの課題に焦点を絞り議論が重ねられました。

6月13日に出された中間とりまとめ案では、「消費者の理解醸成」が生産コストを反映した価格形成の第一歩という認識の下、効果的な広報資材の作成の仕方や情報発信の具体策等が提示されました。

また、生産コストを畜産物の販売価格に反映することに対する消費者の理解を得るために、各種の生産コストがどの程度増加しているかについて「見える化」が必要であるとし、そのためには品目ごとの流通実態を踏まえた専門家による詳細な分析の後に見える化の打ち出し方の検討が必要とされました。



全国農業協同組合連合会 広告

生産コストを適正に反映した価格形成の仕組みづくりについては、現時点では当該仕組みづくりについて、本推進会議が意見集約を行うことは困難であるが、今後、小売りや消費者を含めたバリューチェーン全体を検討範囲とし、飼料コストだけでなく、輸送費、燃料・光熱費等を含めたコスト指標を作成し、これを活用した仕組みについて、まずは生乳・牛乳製品から、専門家によるワーキングチームを立ち上げ、個別に検討することが適当だとされました。

農林水産省の初の試みとしての畜産物の生産コストを適正に反映した価格形成が実現することが期待されます。

■ 畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備について

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/l_tiku_manage/tekiseinakakakukeisei.html



高病原性鳥インフルエンザの清浄化宣言について

6月20日、農林水産省は、高病原性鳥インフルエンザに関する防疫措置が完了し、その後、新たな発生が確認されなかったことから、国内の家きん飼養農場からウイルスがなくなったとして、事実上の終息を意味する清浄化宣言が、5月13日を開始日として国際獣疫事務局（OIE）のウェブサイトに掲載されたと発表しました。

鳥インフルエンザが清浄化した夏季期間は、日頃目の届かない天井等の防疫箇所や衛生管理全般をチェックする良い機会です。今年の秋・冬に備えていただければと思います。

■ [高病原性鳥インフルエンザの清浄化宣言について](https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/230620.html)

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/230620.html>

配合飼料供給価格の動向

令和5年7～9月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、令和5年4～6月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり2,000円値下げすることが決定されました。

なお、改定額は、地域別・畜種別・銘柄別に異なります。



単位：円／平均トン（前四半期比較）

区分	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	年間
令和5年	▼1,000	▼2,000	▼2,000		▼5,000
令和4年	↑2,900	↑4,350	↑11,400	据え置き	↑18,650
令和3年	↑3,900	↑5,500	↑4,700	▼1,250	↑12,850
令和2年	↑700	▼800	▼1,000	↑1,350	↑250
令和元年	↑500	▼850	▼400	▼650	▼1,400

出典：全国農業協同組合連合会（JA全農）「配合飼料供給価格」

■ [令和5年7～9月期の配合飼料供給価格について](https://www.zennoh.or.jp/press/release/2023/95928.html)

<https://www.zennoh.or.jp/press/release/2023/95928.html>



統計データ



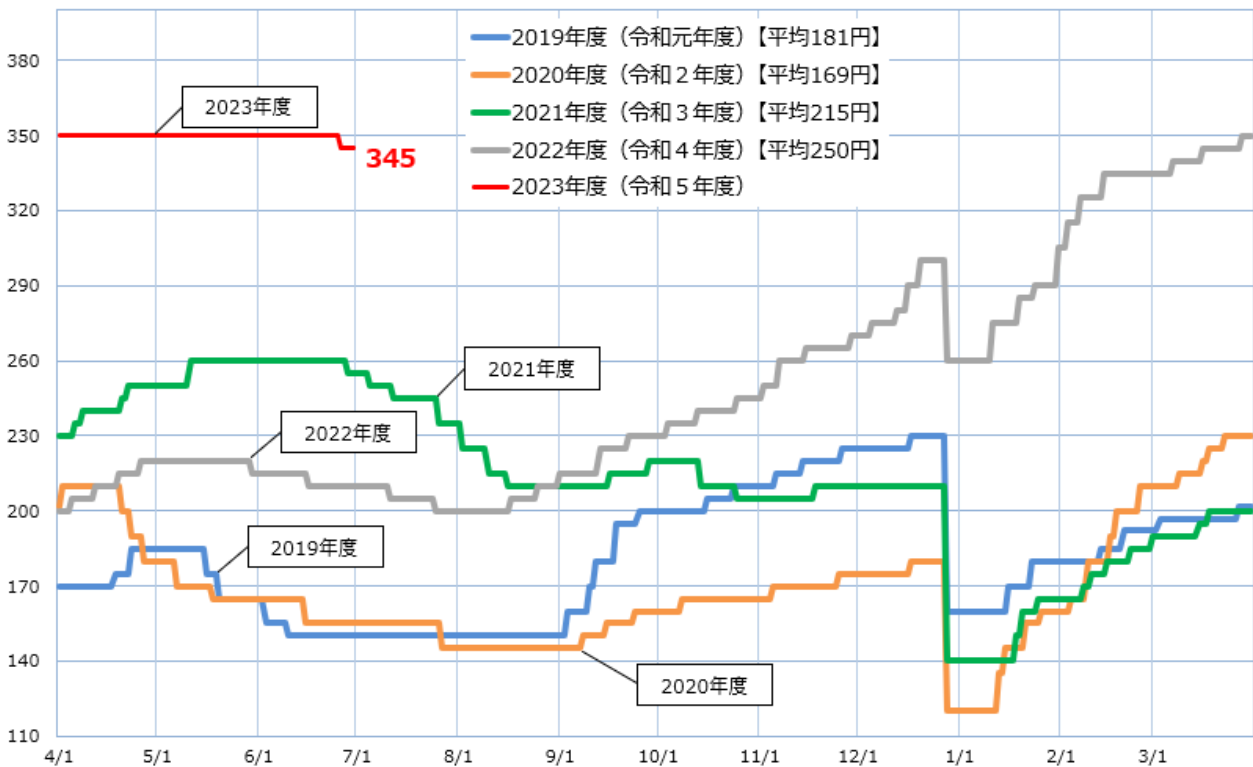
鶏卵相場動向 — 過去10年間の6月相場 東京全農Mサイズ 円/kg

	平均値	高値	安値
平成26年	199	218	189
平成27年	223	248	214
平成28年	197	218	189
平成29年	197	215	191
平成30年	165	183	159
令和元年	151	173	144
令和2年	160	185	149
令和3年	259	280	249
令和4年	213	237	204
令和5年	349	374	339
平均値	211	233	203

令和5年6月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）の高値374円は、過去10年の平均値233円を141円上回り、安値339円は、過去10年の平均値203円を136円上回っています。



鶏卵相場推移 2019年度～2023年度 東京全農Mサイズ 円/kg



鶏卵相場は、年初来上昇を続け、直近の約3か月間、350円のまま高止まりしていましたが、2023年に入って初めて5円下がりました。



鶏卵関係主要計数 —— 令和5年4月までの年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(g)	前年比	前年	本年
4年 5月	9,302	101.3%	480	103.3%	936	93.3%	258	219
6月	8,450	83.8%	489	102.5%	862	97.6%	259	213
7月	9,018	91.4%	438	94.5%	916	101.4%	245	205
8月	8,482	104.2%	467	103.3%	877	95.8%	215	204
9月	7,826	87.7%	461	99.0%	882	97.9%	213	223
10月	8,406	86.7%	470	101.4%	955	101.4%	213	239
11月	8,767	96.8%	481	99.4%	911	98.6%	207	262
12月	9,076	94.8%	511	96.9%	943	99.6%	210	284
5年 1月	8,475	99.3%	447	96.7%	898	96.8%	151	280
2月	8,289	95.6%	424	93.7%	849	94.8%	175	327
3月	9,470	102.4%	475	92.3%	828	86.3%	195	343
4月	8,715	98.6%	436	89.6%	846	92.2%	211	350
1年間合計 平均(%)	104,276	95.2%	5,579	97.7%	10,703	96.3%	213(平均)	262(平均)

- ・雛餌付羽数は、8,715千羽（前年比98.6%）と前年比1.4%減となりました。
- ・配合飼料出荷量は、436千トン（前年比89.6%）と前年比10.4%減となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、846グラム（前年比92.2%）と前年比7.8%減となりました。
- ・鶏卵相場は、前年同月平均の139円高を示しました。

協会活動報告

鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)① 価格差補填事業の事業参加者との
契約数量（トン/月当たり）

令和 元年度	167,141
令和 2年度	163,160
令和 3年度	153,391
令和 4年度	149,558

② 標準取引価格
令和5年6月 343.76円/kg③ 補填基準価格 209円/kg
安定基準価格 190円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会
〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)
Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2023年7月4日
編集・発行責任者：浅木 仁志(info@jpa.or.jp)